

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 29 回 LLW 放射能評価分科会議事録

1. 日時： 2017 年 1 月 23 日（月） 13 時 30 分～ 16 時 20 分
2. 場所： 原子力安全推進協会 D 会議室
3. 出席者（順不同，敬称略） 開始時
（出席委員） 川上（主査），北島（幹事），高橋，黒澤，新津，泉田，尾崎，松居，田中^{（雄）}，
亀尾（10 名）
（代理出席委員） 相澤，伊知地，森本（3 名）
（欠席委員） 田辺，三宅，見上，池戸，伴場（5 名）
（常時参加者） 井上，田中（正），林（隆），都筑，漆戸，柏木，西尾，副島（8 名）
（欠席常時参加者） 石屋，林（宏），中野（3 名）
（傍聴者） 乾，森山（2 名）
4. 配付資料
F10Ph2SC29-0 第 28 回 LLW 放射能評価分科会 議事録案
F10Ph2SC29-1 人事について
F10Ph2SC29-2-1 L1 放射能評価標準の改定に向けた検討経緯の整理
F10Ph2SC29-2-2 附属書 C に対する追加コメント対応の新旧比較表
F10Ph2SC29-3-1 余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順：20XX
（改定案）（一式）
F10Ph2SC29-3-2 余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順：20XX（改定案）
に対するコメント（様式案）
F10Ph2SC29-4-1 【中間報告】AESJ-F015：20XX「余裕深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方
法の基本手順」の改定（案）
F10Ph2SC29-4-2 中間報告（概要）（案）（OHP 資料）
F10Ph2SC29-5 「LLW 放射能評価分科会」の審議の基本計画
F10Ph2SC29-参考 1 LLW 放射能評価分科会（F10Ph2SC）委員名簿
F10Ph2SC29-参考 2 LLW 放射能評価分科会（F10Ph2SC）の基本工程

5. 議事

（1）出席委員の確認

北島幹事より，開始時点で委員 18 名中 13 名の出席があり（代理出席含む），決議に必要な委員数（12 名以上）を満足している旨の報告があった。

（2）前回議事録案の確認

北島幹事より，前回分科会の議事録案について説明があり，誤記を事務局にて修正することで，

承認された。

(3) 分科会人事について (F10Ph2SC29-1)

北島幹事より、辻 智之氏（日本原子力研究開発機構）の常時参加者の登録解除の報告が行われた。また、乾 実紗希氏（日本原子力研究開発機構）の常時参加者の登録が承認された。

(4) 標準の改定に向けた検討経緯 (F10Ph2SC29-2-1, 2-2)

柏木常時参加者より、前回分科会までの審議で出されたコメント等について、修正対応方針等の説明があった。なお、以下の質疑応答、コメントがあった。

- ・ C.2.2.2a)の変更点（タイトル及び最初の箇条書きの内容）に関しては、コメント者の意図を反映しており、了承された。
- ・ C.2.2.2a)のタイトルの「ソース」の意味は何か、定義などに示されておらず、意味を明確にしておいた方が良い。
→中性子源のみならず、広義の INPUT 条件（ソースタームの意味に近い）を意味しているが、意味を付加し「ソース（中性子源に関する情報）」に修正する。
→図 C.1 の「線源ソース」も用語を統一し、ボックス中の 3 行目も「() 書きで示す」など、適切に見直す。
- ・ C.2.2 で「モデリングが制約される場合」と記載されているが、マイナスなイメージであり、修正した方が良いのではないか。
→拝承。「モデリングが簡略化できる場合」などに修正する。
- ・ 図 C.1 の STEP 2 の放射化断面積ライブラリは、中性子断面積ライブラリとすべきではないか。
→拝承。中性子断面積ライブラリに修正する。
- ・ C2.2.1 と C2.2.2 の内容は一部重複するのではないか。
→C2.2.1 は炉心などでの実測などによる中性子フルエンス率の利用による内容を、C.2.2.2 は炉心外の中性子を中性子輸送計算によって求める方法に関する内容を示しており、内容は異なる。

(5) L1 放射能評価標準改定案（全体）(F10Ph2SC29-3-1, 9-3-2)

尾崎委員及び柏木常時参加者より、L1 放射能評価標準改定案（一式）について、本分科会でのこれまでの審議箇所等を中心に、概要の説明があった。本資料については、1ヶ月間程度で誤記チェックを含めた内容確認を行い、コメント等あれば、2017年2月28日までに、所定の様式（別途、事務局より電子データを配信）にコメント等を記載の上、事務局に連絡することとした。

(6) 専門部会などへの中間報告 (F10Ph2SC29-4-1, 9-4-2)

柏木常時参加者より、原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会への中間報告用の報告資料案について説明があった。本資料については、分科会のコメント等を反映の上、原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会に中間報告することとした。なお、以下のコメントがあった。

- ・ F10Ph2SC29-4-2 の P.1 に、LLW (TRU が含まれる) は全て第二種廃棄物埋設と記載されているが、TRU の一部は HLW (第一種廃棄物埋設) に含まれるのではないか。

→拝承。当該分の削除も含め、適切に見直す。

- F10Ph2SC29-4-2 の P. 13 の「委員会」は、誤解（国の委員会など）を招く用語ではないか。

→拝承。検討会などに変更すると共に、P. 12 の記載も、材料の専門家による委員会も整合を図る。

- F10Ph2SC29-4-1 及び 2 の検討工程の次回作業会予定は、5月に修正のこと。

→拝承。

(7) 標準改定の全体計画 (F10Ph2SC29-5)

北島幹事より、L1 放射能評価標準改定案については、次回原子燃料サイクル専門部会（2017年2月28日）及び標準委員会（2017年3月8日）に中間報告を行う予定であるとの説明があった。

また、次回分科会は、中間報告時のコメント等への対応方策などを審議する目的で、2017年5月に開催する予定であるとの説明もあった。

6. 次回の予定

次回分科会は、2017年5月8日（月）（13:30～）で仮決めするが、現状では各位とも5月の予定を明確にできないことから、1ヶ月前頃（4月頃）に事務局から、再確認を行うこととした。

以 上